

ティードフラッグス2021 作品一覧

作品番号	タイトル	説 明 文	入 選
1	ジョン万次郎 大航海の景色	ジョン万次郎 大航海の景色を表現する。大波や小波が、ずれたり、重なったり、連続しながら、それらが屋根となり、展望台となり、休憩所や公衆トイレになる。	
2	波面の休憩所 ~大度海岸にかかる第二の波~	大度海岸という敷地に大度の波を模した大屋根を持った休憩所を計画する。この水面のような屋根が大度海岸の風景と調和し休憩所におおらかさと柔らかさを与える。	
3	水平線を望む ~公衆トイレと休憩所~	大度海岸の美しい水平線を海岸線に視線を誘導する建築計画とした。	
4	ウミハジルーフ	私たちは大度園地内にある様々な影のあり方を見直し、様々なグループの人たちがそれぞれに利用できるように海岸線の一角に海と園地をつなぐ『海端』を提案いたします。	○
5	Compassジョン万次郎の軌跡をたどる	日本の海洋技術の発展に貢献したジョン万次郎のイメージを「羅針盤」をモチーフに建築デザインし、人々の憩いの場になるような休憩所とトイレを提案をします。	
6	時つなぐナミカジ	ピクニックやサーフィンなどのレジャーで足を運ぶ人が多い大渡公園。人が集う場であるからこそ、この場から戦争について学び、平和の有難さを感じ取り、昔と今の繋がりを重んじる場	
7	瞬間を切り撮る	条件が揃ったときのみ現れるフレームを配置し、写真映えスポットを計画する。利用者が遊歩道を散策しながら写真映えスポットを探し、楽しめる休憩施設を提案する。	○
8	マモルヒカリ	海岸では、どのような建築が求められるだろうか。そこに住んでいる生物の立場に立って設計した。ウミガメと光害についての提案です。	学生賞
9	海風の帰り道 -ただただ望む-	海風を迎えるため、門型壁柱+雑壁+大屋根による構造体とし、海風の帰り道を敷地西側より連続させ、この地を訪れる人々にただただ海を感じ、望む機能に重点を置いた施設とした。	
10	Connect ~自然と歴史~	この地の自然と歴史を想い、「自然との繋がり」、「歴史との繋がり」を持たせた施設を提案します。	
11	光と風と糸満を感じ記憶・思い出に残る公園づくり	大度浜海岸の景色とともに風と光を感じられる公衆トイレと休憩所を整備することで、誰もが快適で居心地のよい公園づくりを行います。	
12	記憶の積層	削られた石が精製され、再び積み上がっていき、数千年の時の中で形成されたこの場所の歴史の延長線上にこの建築を計画します。	
13	まがり還し	生活のために切り拓いた敷地を少しずつ自然に還すことでは出来ないだろうか。暮らしと自然の共存を考えた「まがり還す」休憩所を提案する。	
14	杜の潮騒の間で	単なるトイレ、休憩所としての施設ではなく、周辺環境と繋がる新たな「場」を作り出します	
15	大度アークリーフ ~ 大度海岸のもう一つのイノー ~	大度海岸の地形から発想した円弧状の建築により、“もう一つのイノー”としての広場を生み出し、海岸を訪れる人々の拠点の場とします。	○
16	大度浜海岸の休憩所と公衆トイレ	自然の中には、物語やコンセプトは存在せず、ただそこにある木や岩、海が静かに存在している。建築も明確な物体として純粋に自律し、その場所に佇む一つの物質として自然な振る舞いになることを目指して構成した。	
17	sit with nature	自然空間が広がっている大度浜に対し、その空間と向き合えるトイレを考えました。休憩所は、ピクニック広場の拡張を考えデザインされています。	
18	ポノポノ・ポコポコ	ダイバーから放出され水面に浮上する泡、隆起したリーフ、内海に打ち寄せるさざ波を連想し計画しました。	
19	イノー	サンゴ礁に囲まれた浅瀬（イノー）には様々な生き物が集まります。イノーのように様々な人が集まる豊かな場所になるよう計画します。	○

※入選とは、1次審査を通過した者を示しています。

ティータフラッグス2021 作品一覧

作品番号	タイトル	説 明 文	入選
20	4方にひらく屋根	この土地に起こった歴史的要素から建築を構成し現代の人々に「意識」を促す。そんなこの土地の魅力から生まれた休憩所と公衆トイレを提案します。	○
21	平和の常盤 -大度の断層-	大度海岸を構成する自然の要素により構築することで風化を許容し、100年後に自然の一部となる建築を創造します。	○
22	めくる	日常生活で「めくる」機会は、多々ある。本計画では、めくって、生まれる空間を提案する。「めくる」で生まれた空間は、日頃、使用する角ばった空間と違い、緩やかな広々とした空間を演出する。	
23	Lost Coral ~美しいサンゴを守るために~	数多くのサンゴ礁が存在した中で、近年、人間の行動より失われつつある。この地に訪れた人がこの事実知りサンゴについて学んもらうために大度海岸の豊かな自然環境にふさわしい場を提案	
24	Odo Notch	大度海岸の特徴的な地形であるノッチのように包容感のある、日陰を生み出す休憩所とトイレを園地に点景としてちりばめる。	
25	現代と過去が交差する非日常なユートピア	トイレは現代的なデザインでありながらバリアフリーを実現させている。休憩所は沖縄の青い海と白い雲をイメージしクラシカルなデザインとなっている。	
26	羽ばたく翼	大度浜海岸には多くの人々が集い、その自然を楽しんでいる。その美しい海と空を繋ぎ、賑わいある憩いの場となる施設を目指した。	
27	水平線の休憩所と風の通るトイレ	美しい景色と心地よい海風を感じられる水平線の休憩所と風の通るトイレを計画しました。	
28	地形奏でるあづまや	周辺環境とグラデーショナルに繋がるあづまやを提案しました。環境負荷低減やバリアフリーにも配慮した計画としました。	
29	わくわくな拠り所	建物を枠のような形で構成し、建築・景色・人を対象に『望む・望まれる』事に着目した心地良いレストスペースを提案します。	
30	希望への標、平和への標	訪れた人々を迎え入れ、希望と平和への標となるトイレ・休憩所を提案します。	
31	重なり響きあう園地	景色を取り込むデザインとし、大度園地の歴史と自然を尊重しつつ利用者が心地よく過ごせる施設を提案します。	
32	潮だまり	大度浜海岸で干潮時に発生する「潮だまり」から、空間の繋がりを保有性を着想し、建築物にした。緩やかな外構、大屋根、岩形状を用いて、利用者の新たなたまり場となる空間を作る。	
33	ジョン万次郎と架け橋休憩所	ジョン万次郎記念碑への道のりの入口となるゲートを兼ねたトイレ群、外国との架け橋となって活躍した万次郎と平和のアーチ橋のような建築の休憩所	
34	「路」に集う	敷地と周辺環境との関係性を創り出し、それぞれを繋げ、これまで以上の利用形態を創出する場を計画しました。	○
35	地を継ぐ	海蝕崖地と建築が連続的につながり、一体的な自然環境をつくりだす。草木が寄り添い、細かな影を表層に纏って自然の姿へ近づいていく。	

※入選とは、1次審査を通過した者を示しています。